

みんなちがってみんないい

その(4) 指導教諭 木村 栄

今回は自閉スペクトラム症についてお話しします。

自閉スペクトラム症の中核をなす障がいは、「社会的コミュニケーション能力の障害」と「限定された反復的な行動」の2つです。

以前は、その特性によって「高機能自閉症」や「アスペルガー症候群」、「広汎性発達障害」など大きく5つに分類されていましたが、2013年に新版の「精神障害の診断と統計マニュアル(アメリカ精神医学会:通称DSM-5)」にあわせて、日本でも総称が一本化され、「自閉スペクトラム症」になりました。これは前回説明したADHDも同様に変更がありました。

スペクトラムとは、「連続体」という考え方です。ことばや知的な遅れを重複している典型的な「自閉症」から、知能的遅れをほとんどなくしていき、ほとんど知的な遅れがなくなった状態が「高機能自閉症」であり、そこから言葉の遅れを軽くしていき、言葉によるコミュニケーションにほとんど問題のない状態が「アスペルガー症候群」であると考えると分かりやすいと思います。

特性の程度や違いによって表出する個人の特性の差異は大きいけれど、根幹にあるものは同じであるという考え方だと捉えていただければ良いかと思います。

前置きが長くなりましたが、自閉症は脳から脊髄までの中枢神経系に、何らかの障がいがあるためにおこると考えられています。LDやADHD同様、はっきりとした原因は見つかっていません。自閉症も生まれつきの障がいであり、他の病気のように、薬や外科的治療で完治することはないと言われています。

先に述べた2つの障がいの中で、「社会的コミュニケーション能力」に問題があり、学校や家庭、地域などの社会生活で困り感を抱えている子どもが多く見られます。たとえば、話しかけても目を合わせようとしないかたり、感情を顔に出すことが少なかったりして、喜びや悲しみを相手に上手く伝えることができません。

また、ものごとの変化にうまく対応できないことが多く、スケジュールの変更が受け入れられないことや、初めての場所や初めて経験する

ことに不安を感じて、突然泣き出したり、混乱して癩癩(かんしゃく)をおこしたりすることもあります。

「限定された反復的な行動」とは、心を落ち着かせる理由などから、同じ行動を何度も繰り返すとか、一つのものに強いこだわりをもつという特徴です。

ただ、こうした特徴の現れ方には個人差があり、すべての自閉スペクトラム症の人に見られるわけではありません。

ここ数年、自閉症当事者の方が、自分のことを本にしたり講演したりすることが多くなってきました。テレビの番組で特集されることも少なくありません。そういう本を読んだり、講演を聴いたりして分かることとして、社会性の問題と合わせて、感覚の問題をかかえている人が多いということです。

自閉スペクトラム症に限らずですが、感覚の過敏さをもっている人が多く見られます。

たとえば、水道やシャワーの水が皮膚に当たると、激痛に感じてしまう人もいます。大きな音や特定の周波数に敏感に反応して、不安な気持ちになったり、イライラして怒り出したりする人もいます。これは個人差なので誰にでも当てはまるわけではありません。

自閉スペクトラム症の赤ちゃんは、国や人種に関係なく、毎年千人に1.5人くらいの割合で生まれてくると言われています。男女の発生割合も国や人種に関係なく、4対1くらいの割合で男の子の方が多く生まれています。

自閉スペクトラム症の特徴をまとめてみると

- ・コミュニケーションをとるのが難しい
- ・ことばの発達に、遅れや偏りがある
- ・変化にうまく対応できない。
- ・活動や興味の幅が狭い
- ・音やものごとに対する感じ方が違う
- ・特別な能力を持っていることがある

などですが、LDやADHD、知的障害を重複している場合が多いです。

一見すると「わがまま」や「自分勝手」に思われがちですが、決してそうではないのです。

次回はその他の障がいや気になる特性についてお話しします。

NHK「秋の特集ウィーク」の「発達障害プロジェクト」で、発達障害を取り上げたたくさんさんの番組を放送していました。見られた方もいらつしやると思います。感銘を受けた番組がたくさんあったのですが、その中の一つに「所さん!大変ですよ」という番組がありました。番組の中で、一人の男性が倍速でドライブレコーダーの映像をチェックしていました。ドライブレコーダーの映像を見ることで、危険運転のチェックをしているのです。通常のスピードでも見つけることが難しい自転車の飛び出しの可能性を、倍速で見つけ見つけた男性。何時間も集中してこの作業をすることができるといいます。

この男性は好きな自動車整備の仕事についてたものの、同僚とコミュニケーションをとりながら仕事をすることが苦手で、続けることができなかつたそうです。しかし、何時も映像を見ることができるとも、倍速で見ても的確に指摘できる能力をかれ、現在の会社に就職。自身もつこ

わりを認めてもらった上で、その能力を生かしながら仕事をすることができています。

世の中には、全く同じ人間はいません。どこから人と違っているのです。その人と違っているところを「強み」に変えて働くことができれば、社会の中で能力を発揮できる発達障害の人たちは、まだまだたくさんいるはずなんです。

今東小の中に、「授業の中での困難さ」や「人との関わり方の難しさ」などをかかえている子どももいるとしたら、早めに対応しやすさから解き放ち、本来発揮すべき「強み」や「能力」を育ててあげたいと思います。

それを阻むのは「偏見」です。人と違うことは決して悪いことではない。人と違うからこそ発揮できる力もある。時津東小学校に関わる全ての大人や子どもが同じ思いをもち、みんなが幸福だと思つて過ごせる、時津東小学校を作つていきたいと思つています。

目指すは「幸福度ランキング一位」の時津東小学校です。